

大阪最大のアーティスト・シェアスタジオ Super Studio Kitakagaya (SSK) 一般公開+展覧会「Open Studio 2024 Autumn」を開催

昨年度から入居者の約半数が入れ替わった SSK を公開

芸術文化支援および北加賀屋でアートのまちづくりに取り組む一般財団法人おおさか創造千島財団（大阪市住之江区）は、アーティスト・クリエイター向けシェアスタジオ Super Studio Kitakagaya (SSK) の一般公開+展覧会「Open Studio 2024 Autumn」を2024年10月18日（金）から27日（日）までの計6日間開催いたします。



Super Studio Kitakagaya (SSK) は、アーティストやクリエイター支援を目的とした大阪最大のシェアスタジオです（2020年開設）。元造船所の倉庫をリノベーションした建物は、天井高7m、延べ床面積830㎡の特徴ある巨大空間となっています。

昨年度から約1/2の入居者が入れ替わり、現在20～40代の実力派・注目株アーティスト・クリエイター計16名※がSSKで日々活動しています。

今回は、作業場の一般公開のほか、新入居アーティスト・林俊作による映像

作品の上映と、屋台のリサーチとデザイン・制作を行う建築家・下寺孝典が、自作の屋台の展示に加え、飲食の販売も行います。※レジデンスアーティスト1名含む



下寺孝典/撮影：増田好郎



林俊作

入居アーティスト・池田高広が、スूसーキッチンでスパイスカレー店「いけ家」をオープン！

さらに、SSK のはなれにあるクリエイターズキッチン「スूसーキッチン」では、食と生活、生きることをテーマに作品を制作するアーティスト・池田高広が、10月19日（土）、26日（土）限定で「いけ屋」を開店。スパイスカレーを提供します。

普段は見ることのできない、アーティスト・クリエイターが活動する場にぜひお越しください。

本オープンスタジオのほか、同期間、北加賀屋ではアートイベントを多数開催！まちを回遊してアートをお楽しみください。

「Open Studio 2024 Autumn」

開催概要	<p>会期：2024年10月18日（金）～20日（日）、25日（金）～27日（日）（計6日間） ※11月10日（日）特別開館</p> <p>時間：12:00～18:00</p> <p>会場：Super Studio Kitakagaya（SSK） 大阪市住之江区北加賀屋 5-4-64</p> <p>入場：無料</p>
関連プログラム	<p>いけ家@スースーキッチン 入居アーティスト・池田高広が「いけ家」を2日間限定で開店。</p> <p>日程：2024年10月19日（金）、26日（金） 時間：12:00～18:00 メニュー：スパイスカレー ※予約不要</p> <p>スタジオツアー 少人数のツアー形式で、入居アーティスト・クリエイターの話聞きながら、スタジオ内を回ります。</p> <p>日程：2024年10月19日（土） 時間：15:00～16:00 参加費：無料 ※要申込、最大5名 申込方法：Peatix よりお申し込みください https://ssk-studiotour2024.peatix.com/</p>
入居アーティスト・クリエイター	<p>池田高広（版画、絵画） / 上平千晶（インスタレーション） / 大崎のぶゆき（絵画、映像、写真、インスタレーション） / 香川裕樹（インスタレーション） / 齊藤あかね（写真、現代アート） / 下寺孝典（建築、デザイン） / 高田マル（絵画） / 高野千聖（インスタレーション、立体造形） / 中原実香（絵画） / NAZE（絵画） / 山村憲市（映像、ウェブ、グラフィック） / 林俊作（絵画、映像） / 冬木遼太郎（コンセプチュアルアート） / 山本正大（ディレクション、マネジメント） / 葎村太一（彫刻） / LALA MONSERRAT*（領域横断）</p> <p>※開催期間中、レジデンス滞在</p>
主催	一般財団法人おおさか創造千島財団
WEB サイト	https://ssk-chishima.info/
会場までのアクセス	<p>Osaka Metro 四つ橋線「北加賀屋」駅 4 番出口より徒歩 10 分 ※JR 新大阪方面からは、OsakaMetro 御堂筋線「大国町」駅で四つ橋線に乗換 ※阪神高速堺線「玉出」出口より約 5 分 ※近隣に有料駐車場有</p> <p>https://ssk-chishima.info/access/</p>



撮影：増田好郎

北加賀屋の同時期開催イベント



MASK「Open Storage 2024 –祝う収蔵庫– MASK 10th Anniversary」

大型現代アート作品の“見せる収蔵庫”「MASK」の一般公開。開館 10 周年を記念したスペシャルパフォーマンス&トークも開催。

会期：2024年10月18日（金）～20日（日）、25日（金）～27日（日）、11月1日（金）～4日（月・休）計10日間 ※11月10日（日）特別開館
 場所：MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)
 時間：12:00～18:00
 入場：無料 ※11月2日イベントは有料
 参加アーティスト：宇治野宗輝、金氏徹平、久保田弘成、名和晃平、持田敦子、やなぎみわ、ヤノベケンジ

<https://mask.chishima-foundation.com/>



KITAKAGAYA FLEA 2024 AUTUMN & ASIA BOOK MARKET

IN/SECTS 主催 ブックマーケットや手しごと市、ライブなど複合的なカルチャーイベントを開催

日時：2024年10月19日（土）12:00～19:00、20日（日）11:00～18:30
 会場：クリエイティブセンター大阪
 入場：各日 700円

<https://kitakagayaflea.jp/>



M@M 第10回展「ワタシ」の「他人」、「タニン」の「私」。

森村泰昌によるセルフポートレート作品と、他の作家による森村を描いた/撮影した作品を並べて展示する展覧会

会期：2024年11月1日（金）～2025年4月6日（日）の金土日 12:00～18:00
 会場：M@M (モリムラ@ミュージアム)
 入場：一般・大学生 600円、高校生・中学生 200円、小学生以下 無料

<https://www.morimura-at-museum.org/>



持田敦子「解体」映像記録 上映会

アートプロジェクト「解体」の映像記録の上映とゲストを招いたトークイベントを開催

日程：2024年11月3日（日）、4日（月・休）14:00～16:00
 会場：千島文化ホール
 入場：無料
 支援:令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業



すみのおえアート・ビート 2024

ラバー・ダックが登場！住之江・北加賀屋のアートなお祭りを開催

日時：2024年11月10日（日）10:00～16:00
 会場：クリエイティブセンター大阪
 入場：無料 <https://suminoeartbeat.wixsite.com/home>

参加アーティスト・クリエイター（SSK入居者）

池田 高広 美術作家 （版画、絵画など）	1983年 滋賀県生まれ。2004年 大阪美術大学短期大学部デザイン美術学科版画専攻卒業。2007年 大阪芸術大学美術学科版画コース卒業。食と生活、生きることを作品のテーマとして版画、絵画を中心に作品制作をしています。近年は山に登り、山からのイメージや素材を組み合わせた作品を発表しています。 https://www.instagram.com/taka3hiro7/ 画像：『東雲』 / 制作年 2023 / グループ展 星を見つめる人 / Gallery Heptagon / 撮影者 オカモトアユミ	
上平 千晶 プログラマー （インスタレーション）	1996年生まれのプログラマー。プログラミングとコンピュータサイエンスを基盤に、ソフトウェア、ハードウェア、音楽、映像、インスタレーションなどマルチメディアでのリサーチ・開発を行う。I/O STUDIOの主宰。合同会社PIXELGRAM代表。 https://www.uurr.io 画像：個展「折重なる反響と波のゆくさき」、2024年、千島文化ホール、撮影：森下大喜	
大崎 のぶゆき 美術作家 （絵画、映像、写真、インスタレーション）	大阪府生まれ。文化庁新進芸術家海外研修員（2021～22年）。「咲くやこの花賞」受賞（2017年）。自身の存在を軸に世界を知覚するべく、独自の方法で描かれた絵が溶けていく作品など、不確かさについての感覚を視覚化する作品を国内外の美術館等で発表している。 http://www.nobuyuki-osaki.com 画像：《Travel Journal》2022、インスタレーション、「DOMANI・明日展 2022-23 百年まえから、百年あとへ」国立新美術館、撮影：大塚敬太＋稲口俊太	
香川 裕樹 アーティスト （インスタレーション）	1988年香川県生まれ。京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）空間演出デザイン学科卒業。固定や配置を維持しないことで、インスタレーションという形式を用いながら再現や仮設とは異なる別の作品の在り方を模索している。 画像：《正面か、それ以外》 2023 個展「置いたものを見る方法」Nest（大阪）	
齊藤 あかね アーティスト、アートプランナー （写真、現代アート）	1999年 大阪府生まれ、2023年 成安造形大学 現代アート卒業 息を吸って、吐いてを繰り返す「呼吸」に着目。新陳代謝を繰り返し、変化しつつも過去を今あるイメージとして「場の記憶（トポス）」を掬い上げる。 https://www.instagram.com/110_oo0/ 画像：タイトル「breathing-grandmother」製作年 2023年	
下寺 孝典 建築家 （建築、デザイン）	1994年広島県呉市生まれ。「屋台」を専門に「TAIYA（タイヤ）」という屋号のもと、屋台のリサーチから設計、デザイン、制作を行う。また、東南アジア各国の「屋台の生態系」調査をし、都市空間で自作の屋台を引きながら研究と実践も行う。 https://www.instagram.com/taiya.asia/ 画像：SSK Open Studio 2021 Spring インスタレーション	
高田 マル 画家 （絵画）	人間はなぜ、いまだに絵を描くのか。絵をめぐる人間の原初的な衝動や欲求を探るうえで、「絵画」を人と人のあいだで起こる出来事として捉え、ごく個人的な描写と記述、公の場におけるそれらの伝達と誤読のなかで何が起こっているのか実践を通して考えている。 https://takadamaru.myportfolio.com/ 画像：この花、ダリア、ダリア、ダリア / 2024年 / NADiff window gallery / 撮影＝間庭裕基	
高野 千聖 アーティスト （インスタレーション、立体造形）	1998年生まれ。大阪出身・在住。2017年大阪府立港南造形高等学校卒業。2021年近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻修了。都市が生み出した廃材、建築資材、既製品などを用いて、インスタレーションや立体作品を制作している。 https://www.instagram.com/chisatotakano/ 画像：《intersection-Kitakagaya》 / 2023 / 高野 千聖 個展「Cycle」 / 千島文化ホール / 撮影：小西小多郎	
中原 実香 画家 （絵画）	1999年兵庫県生まれ。2024年京都市立芸術大学大学院 油画専攻 修了。人間の弱さ、揺らぎ、その不安定さを描く。古典から近代までの西洋・日本の物語や絵画について「現代に生きるわたし」の視点から再解釈し、葛藤や不安の感覚が喚起される瞬間・情景のイメージを元に制作を行う。 https://mikanakahara.boj.jp/ 画像：《The Entombment of Ego》 / キャンバスにテンペラ、油彩 / 京都市立芸術大学作品展「大学院市長賞」受賞 / 2024 / 撮影：佐藤真優	

Press Release

2024年10月1日

<p>NAZE アーティスト (絵画)</p>	<p>1989年生まれ。触覚的な筆致で描かれるドローイング、スプレーやコラージュを用いたペインティングや壁画、廃棄物を使ったオブジェなど、様々な表現を往復しながら作品を創り続けている。contact Gonzo としても活動中。 https://www.instagram.com/naze.989/</p> <p>画像：タイトル：Dirty sports club / 素材：パネル、アクリル、スプレー、ペン / サイズ：W455 x H455 x D20mm / 制作年：2022</p>	
<p>山村 憲市 ディレクター (映像、ウェブ、グラフィック)</p>	<p>広告を中心に映像、ウェブ、グラフィックを手掛ける。本人の専門分野は映像とアート。クリエイティブグループ n/m に属して活動中。イギリスのアーティスト Ben Eine のマネージャー業務やアートショーのキュレーションも行う。またフランス Print Them All のアジア担当。 https://503.co.jp/ https://printthemall.com/</p> <p>画像：Ben Eine、Photo by Kenichi Yamamura</p>	
<p>林 俊作 画家、映画監督 (絵画、映像)</p>	<p>2015年、文化庁新進芸術家海外研修制度の助成を受けロンドン大学ゴールドスミス美術学部卒業。"Interstitial" が第22回スラムダンス映画祭にてアニメーション部門最高賞を受賞。2019年、"Leaking Life" が第69回ベルリン国際映画祭に入選。 https://shunsakuhayashi.com</p> <p>画像：Waterway / 2021</p>	
<p>冬木 遼太郎 アーティスト (コンセプチュアルアート)</p>	<p>1984年 富山県生まれ。 2010年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科彫刻専攻 修了。 2023年 東京藝術大学 大学院美術研究科 GAP 専攻 研究生。 https://ryotarofuyuki.tumblr.com/</p> <p>画像： dayafternext 「デヤフタネクスト」 2023 / size available / LED light, Computer, acrylic resin, Urethane resin, Wood, etc</p>	
<p>山本 正大 ディレクション、マネジメント</p>	<p>ディレクション/マネジメント。アートプロジェクトや展覧会のディレクションに携わる。またオリジナルプロダクトのディレクション・デザイン、製造・物流・商流の事業を行う。 Birds : https://birdseatbread.jp/ HUB-IBARAKI ART PROJECT : https://hub-ibaraki-art.com/</p> <p>画像：大阪府茨木市 文化事業「HUB-IBARAKI ART PROJECT」(ディレクション、アートディレクション) 2013~2022</p>	
<p>葭村 太一 彫刻家 (彫刻)</p>	<p>日常に溶け込んでしまった“痕跡”に焦点を当て、その奥に存在するであろう目には見えない不確かな部分から作品を制作している。忘却し消えゆくものの時間を保存し、時間感覚の本質を問いかける。主な展覧会に、「34° 40'33"N 135° 29'55"E」Marco gallery(2022年/大阪)個展、「Imitation or mimic」千島文化ホール(2021年/大阪)個展、「REACTION」VOU(2020年/京都)個展、「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2019」記念碑台(2019年/兵庫)など。 http://taichiyoshimura.com</p> <p>画像：2021、個展「Imitation or mimic」展示風景 千島文化ホール 撮影：大槻智夫</p>	
<p>Lala Monserrat アーティスト (領域横断) ※TRA-TRAVELと The Japan Foundation, Manilaによるアーティスト・イン・レジデンスプログラム「AIR Δ vol.9」にて招致</p>	<p>1993年、フィリピンのメトロマニラ、ラス・ピニャス市生まれ。フィリピン女性大学美術デザイン学部でスタジオアート(絵画)の学位を取得。モンセラットは、「記憶」「経験」「物質」といったテーマに基づく、感覚的かつ現象学的な「瞑想」に関心を寄せるアーティスト。インスタレーション、絵画、映像などの多様なメディアを用い、形成期やトラウマ的な経験を再構築することから、経験の変容や癒しの過程を表現する。 画像：《Maria, Maria》2020-2024, 映像作品</p>	